

～ いざカンボジア王国へ！ ～

JICA 長期専門家 小松海里

この度、2019年7月1日から2021年6月30日までの2年間の予定で、カンボジア王国にJICA長期専門家として赴任しました小松海里（こまつかいり）と申します。折を見てプロジェクトの情報やこちらで感じたことなどを発信していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

カンボジア派遣の話をもっと詳しく知りたいとき、正直に申しますと国の位置も厳密にはわかりませんでした。そして思い浮かぶイメージは、アンコールワットとカンボジア内戦(1970年～1993年)、それに伴うカンボジア難民と大量の地雷といった、歴史ある世界遺産や田園風景などの平和と悲惨な紛争の共存した国という感じでした。

水関係では「プノンペンの奇跡」と呼ばれる北九州市さんが中心的役割を果たされて行われたJICAプロジェクトの水道改革が思い浮かびます。



カンボジアのイメージ：平和と紛争

今回、私はJICA長期専門家として、首都プノンペンにある国の行政機関、公共事業・運輸省(MPWT) 下水道管理・建設部(SMCD)において「プノンペン都庁及び公共事業・運輸省下水管理能力強化プロジェクト」に参画します。このプロジェクトはプノンペン都庁の公共事業運輸局(DPWT)とMPWTの合同のもので、DPWTには北九州市の平野哲専門家が、両方にまたがった業務調整として林孝明専門家が4月から赴任されています。

私の具体的な役割は、MPWTの下水道管理に係る法・制度の枠組みを強化するために、省令案や下水道管理に係る技術指針案の策定等を支援することです。

現在、シェムリアップ、プレアシハヌークビル、バタンバンという3都市にアジア開発銀行(ADB)、EU、韓国等の支援で安定化池の下水処理場が建設されており、プノンペンにはまだ公共の下水道施設はありません。統計上では、90%以上の家屋で腐敗槽(セプティックタンク)が設置されていることになっているようですが、実態は設置されていないケースや定められた最小容積(3m<sup>3</sup>)に満たないセプティックタンクを設置していることもあるようです。また、セプティックタンクの汚泥引き抜きが適切に行われていないケースもあり、問題点は多そうです。さらに、セプティックタンクはし尿のみを処理しているので、汚濁負荷の大きな割合を占める生活雑排水は河川等に直接排水されています。



MPWTにて

左から JICA 林専門家、筆者、総局長、局長

総局長： H.E. Mr. Heng Rathpiseth

局長： Mr. Chao Sopheak Phibal

現在のカンボジアでの生活ですが、プノンペンにあるホテルに宿泊し、まずは JICA 事務所でブリーフィングを受けたり、家探しをしたり、銀行口座を開けたりと生活および業務の基盤構築を急いでいます。とはいえ、4月から平野さん、林さんが動き始めているプロジェクトのため、やるべきことはすでにいろいろとあるようです。また、噂に聞く他のプロジェクトに比べると、カウンターパートのやる気は高く、期待も非常に大きいように感じられます。

JS から 25 人目の JICA 長期専門家として、いち早くカンボジアに馴染み、プロジェクトの成功に向けて全力を尽くしたいと考えています。出発に際して、JS 内外の皆様にご協力、ご助言いただきましたこと、改めて感謝を申し上げます。また今後、多くの方にご指導とご協力を仰ぐことがあろうかと思われませんが、その際はどうぞよろしくお願い申し上げます。

どなた様もカンボジアにお越しの際には、ぜひお声がけいただけますと幸いです。



ホテルの部屋からの眺め

メコン川に映える朝日



初挑戦した現地料理 4人前1人1.5ドルくらい

(この執筆直前に食べましたが、まだお腹は大丈夫です)

ちなみに、小松海里をクメール語（こちらの方はクメールではなく、クマエと発音するようです）で書くと「កុម៉ាទ្រីកាអ៊ុយ」表記します。お手紙、郵送物を小松宛にお送りくださる際には、このクメール語をあて先に明記ください。（もちろん冗談です）